

桜庭 ツギさん



歴史と伝統の

『高等専修学校』へスポット

学校法人 月居学園

月居服装専門学校

日本の産業社会の進展を考えたとき、二十一世紀は技術と資格を身につけたスペシャリストの時代に入ると考えます。そこで、夢多き未来を開拓する若い人に自分なりの価値観（自信）を持てる素地を提供してくれる場として、月居服装専門学校を紹介します。

創立の思い

月居八子氏

月居学園創立者

身につけた教養と技術は死ぬまで失われるものではないこと。そして「人生はいつどんな苦難に出会うかわかりません。万一の際に、必要な気構えと技術を身につけることのできる場を設けることを一生の事業としたい」と考えたのです。

月居先生は自分に厳しく、人には礼と愛と奉仕の心を持って当たるといふ、信念に貫かれているかたでもあったようです。しかも指導においては、すべてを傾けて率先遂行、厳しいまでの教育愛を持って当たられたそうです。さらに「金剛石」の歌を心の鏡として大切にされていたそうです。

次の「金剛石」の歌は、現在でも機会あるごとに校内で斉唱されています。

『金剛石』

金剛石も みがかずば
珠の光は そはざらむ
人もまなびて のちにこそ
まことの徳は あらはるれ
時計の針の たえまなく
めぐるがごとく ときのまの
ひかげ惜しみて はげみなば
いかなるわざか ならざらむ

『金剛石』の内容

ダイヤモンドも磨かないと、値打ちがありません。人間も勉強して、初めてその人の良さが現われてくるものです。時計の針がいつも休まず動いているように、時間を無駄にしないで勉強してください。その努力がいつか実を結びます。

『高等専修学校とは』

中学校卒業後、特定の技術や職業資格を身につけることを希望する青少年に、実践的な教育を行うことを特色としています。また、昭和六十年より、文部大臣の指定した高等専修学校を卒業すれば、大学進学の道が開かれるようになりました。

『服装専門学校の役割』



服飾（家政）の分野は、洋裁、和裁、編み物、手芸などの被服に関する専門技術を教える家政系の学校として、服装教育を担ってきました。現在では、社会のニーズに答えるため、服飾技術の専門的・職業的教育を行っています。また、新しいカリキュラムとして、ファッションビジネスの講座を設置する学校が増えつつあるのも最近の目立った傾向として挙げられ、ファッションアドバイザー、スタイリスト、バイヤー、コーディネート等々を養成しているとのことでした。

『展望』

これからの高校生にぜひ知っていただきたいこととして、二十一世紀は技術と資格を身につけたスペシャリストの時代が訪れることであり、夢多き未来を開拓する人に望みたいことは、職業に対して自分なりの価値観を持つことです。この意味から、高等専修学校（月居服装専門学校）の果たす役割は今後も大きなものになると確信しています。



茶道



高等課程3年生のみなさん



和裁



校舎と
月居八子氏の銅像



着つけ